

令和6年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	さあ！いっしょに SDGs 宣言！環境保全と身近な SDGs の取り組みを知ろう
2	実施社会福祉協議会	鴻巣市社会福祉協議会
3	協力団体	リコージャパン株式会社、株式会社リコー
4	活動年月日	令和6年8月2日
5	活動場所	鴻巣市総合福祉センター 生涯学習室
6	内容	デジタル紙芝居を使ったSDGsについての講話、樹脂判別センサー機を用いて参加者が持参したプラスチック製品で判別体験
7	活動の様子	

今回の体験では、SDGsのなかの大きなテーマになっている、環境問題について学びました。

エビをたくさん養殖するためにマングローブが少なくなり、環境にも影響を与えていることを学び、プラスチックが海に流れ出ることによって生き物たちに重大な健康被害を与えていることを理解しました。

また、プラスチックごみの削減にもつながる間伐材を利用した木のストローも自分たちで作りました。

最後には、身近なプラスチック製品の種類を調べる、判別体験を行いました。

参加者からは、「身近なところを意識することで地球を変えられると分かった」といった感想がありました！

目的

企業が取り組む社会貢献活動と連携し、近年関心が高いSDGsから環境をテーマに取り上げました。海洋ゴミ等の環境問題について学び、身近にできる活動について考える機会となることを目的としました。

体験内容

- デジタル紙芝居でSDGsについて学ぶ
- 間伐材を使った木のストローづくり
- 樹脂判別センサー機を使って身近な物を判別体験
- 質疑応答



1	プログラム名	あなたもまちの“ご近所おたすけ隊”！～認知症サポーター養成講座～
2	実施社会福祉協議会	鴻巣市社会福祉協議会
3	協力団体	鴻巣市認知症地域支援推進員
4	活動年月日	令和6年8月9日
5	活動場所	鴻巣市総合福祉センター 生涯学習室
6	内容	鴻巣市認知症地域支援推進員による認知症サポーター養成講座
7	活動の様子	

今回の体験では、地域包括支援センターこうのとりのとりより鴻巣市認知症地域支援推進委員の方にお越しいただき、認知症についてのお話をききました。

認知症ではどういう症状が現れるのか、実際の生活場面に近い寸劇を見て理解しました。また、認知症の人と接する中で、「驚かせない」「急がせない」「心を傷つけない」の3つの「ない」が大切だと学びました。

そして、講座終了後には受講した全員に認知度サポーター証とオレンジリングが贈呈されました。

参加者からは、「劇が分かりやすかった」、「認知症について知ることができた」といった感想があげられました！

目的

認知症の方や身近にいる家族が安心して地域で暮らしていくため、みんなで認知症について学び、正しく理解することを目的としました。

体験内容

- ・認知症のおはなし
- ・認知症の症状についての寸劇、認知症の人への対応の心得
- ・オレンジリングと認知症サポーター証の贈呈式
- ・みまもり隊について紹介
- ・質疑応答



1	プログラム名	いろいろな「車イス」を知って・見て・乗ってみよう！
2	実施社会福祉協議会	鴻巣市社会福祉協議会
3	協力団体	有限会社ハートサービス
4	活動年月日	令和6年8月7日
5	活動場所	鴻巣市総合福祉センター 生涯学習室
6	内容	車椅子について学ぶ、いろいろな車イスの試乗、操作体験
7	活動の様子	

有限会社ハートサービスの職員さんにご協力いただき、車椅子をご用意いただき、高齢の方や障がいのある方の暮らしを支援する車イスについて学びました。電動車いすやシニアカーなど特殊な機能を備えた様々な車イスがあることを知り、実際に見て・触れて・乗ることができました。

参加者同士で交互に操作する人と乗る人になり、相互の気持ちを知る機会にもなりました。

当日は、中学生から高校生が参加しました。

♡参加者の声♡

- ・車イスは1種類しかないと思っていたけど、たくさんあることを知れた。
- ・面白く、楽しく学ぶことができた。
- ・使う人に合わせて、使えることが分かった。
- ・福祉に興味を持った。

目的

企業と連携し、普段は触れることの少ない様々な車いすについて学び、実際に見て、乗って、操作体験を行い、乗る役・押す役両方の立場になって、どうすれば安心して乗れるか考えるていくことを目的としました。

体験内容

- ・車いすについてのお話
- ・車いすの操作、試乗体験
- ・質疑応答



1	プログラム名	障がい者スポーツを体験しよう ～ボッチャ～
2	実施社会福祉協議会	鴻巣市社会福祉協議会
3	協力団体	鴻巣市社会福祉協議会 ボッチャサポーター
4	活動年月日	令和6年7月26日、8月5日
5	活動場所	鴻巣市総合福祉センター 生涯学習室
6	内容	ボッチャについての説明、ミニゲーム
7	活動の様子	

今回の体験では、小学生、中学生とそれぞれで対象を分け、2日間の日程で行いました。

市内でボッチャの普及活動を行う、「ボッチャサポーター」からボッチャについての説明を受けます。その後、ゲームを行い、2日間とも接戦となり大いに盛り上がりました。

そして、補助具であるランプの使い方やサポートするひとの役割、車いすにも乗って、車いすの目線も実際に体験しました。

参加した学生からは、「ボッチャのルールが分かった」、「シンプルだけど難しく、とても楽しかった」、「広くない場所でも行えて、誰でもできるスポーツだと分かった」といった感想があげられました！

目的

ボッチャ（普及）サポーターから「ボッチャ」について学び、普及ボランティア活動を知ってもらい、障がい者スポーツ「ボッチャ」は誰もが楽しめるスポーツであることを体験を通して、身近に感じてもらうことを目的としました。

体験内容

- ボッチャについて知ろう
- ボッチャを体験しよう
- みんなでミニゲームをしよう
- 車いすと手作りランプ（投球補助具）を使って、体験しよう



1	プログラム名	鴻巣市社会福祉協議会 夏のボランティア体験プログラム
2	実施社会福祉協議会	鴻巣市社会福祉協議会
3	協力団体	ボランティア団体、関係機関・施設の皆さん
4	活動年月日	2024 年 7 月 21 日～8 月 31 日まで
5	活動場所	市内ボランティア活動先
6	内容	下記の通り
7	活動の様子	【No.7 子育てサロン準備】  【No 障がい者施設にて利用者さんとお話】  【No.13 映画の音だけをきいて状況を想像する】  【No.27 施設にてグラウンドゴルフの補助】  【No.31 ハーモニカとリコーダーのコラボ】  【No.18 地震が起きたときの行動】  夏ボラでは上記写真のボラセンに登録しているボランティア団体の皆さんを含む、企業や福祉施設など多くの方にご協力いただきました。 今年は全部で 37 のメニューとなり、およそ 260 名の方がさまざまな体験をしました！ 参加者からは「衣類バンクの活動を通して喜んでくれる人がいると思ったら、ていねいに活動できました。」「手話を学ぶことでまた違った世界が広がると感じました。」「以前から子ども食堂の活動に興味があり、お仕事に関わることができ、運営の大変さも実感できました。」といった感想があげられました！

令和6年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	グリーンボランティア活動
2	実施社会福祉協議会	鴻巣市社会福祉協議会
3	協力団体	サスナー会
4	活動年月日	令和6年5月26日
5	活動場所	鴻巣市総合福祉センター
6	内容	鴻巣市総合福祉センター花壇の緑化活動

7 活動の様子

～ 活動の目的 ～

少し早めの活動メニューとして、5月に「グリーンボランティア活動」を実施しました。

「ひな人形と花のまち」である鴻巣ならではの、花が身近にある暮らしと施設を利用する方や地域の方との交流や繋がり場づくり、そして緑化活動と一緒に体験し、ボランティア活動の楽しさを体感してもらうことを目的としました。



～ 活動内容 ～

ボランティアグループの「サスナー会」の皆さんにご協力いただき、土づく、花の苗の取り扱い、植え方などを学びました。様々な花の生育の違いに合わせて、花壇に1つ1つ植えていき、最後には記念プレートも設置しました。

当日は、小学生から高校生までの児童・生徒とその保護者が参加され、サスナー会の皆さんから“押し花のしおり”の作り方を教えてもらい、参加された方へプレゼントしていただきました。

♡参加者の声♡

- ・初めて体験をしたが、みんなで楽しく花植えができてよかった。
- ・サスナー会の皆さんから、花の植え方や花のことを教えてくれた。知れてよかった。
- ・グリーンにすることで、生活の環境をよくし、豊かにすることが大切だとわかった。
- ・家でもやりたいと思いました。